



お一人お一人興味を持たれている事、得意な事、叶えたい生活は違います。私たち専門職はそれぞれのニーズを知り『支援する目的』を常に考えプログラムをご提供しています。

介護福祉士の取り組み:

「保育園へ訪問にいきました」



手芸部で作成したこいのぼりが完成し、部員のお二人と保育園へお渡しに伺いました。最初は恥ずかしそうにされていましたが、徐々に笑顔が見られ、こいのぼりを外して遊べる説明をしてくださいました。園児のみなさんからは、こいのぼりの歌のプレゼントがあり、別れ際は少し名残惜しそうな様子が見られました。利用者様お二人とも達成感上々・大満足です。これからも子供たちの笑顔がたくさん溢れるように、手芸部がんばっていきま〜す!!!

介護福祉士：石井 沙織

セラピストの取り組み:

居宅訪問から目標達成に繋げる



T様（80歳）は50代で脳梗塞発症され、左手足麻痺があります。

今年1月、自宅でトイレに行く途中に転倒し、腰椎圧迫骨折され入院されました。自宅トイレまでは4点杖で12cm、9cmの段差を越え、約4m歩かないといけません。一見とても低い段差のように感じますが、T様にとっての段差は、私たちが高い壁を越えてトイレに行くことと同じなのです。「**トイレだけは自分で歩いていくことを続けたい!**」という目標を持つT様。目標達成には、段差を確実に超えることができる動作の獲得、歩行耐久性向上が必要ですが、一番大切なのは、「自分の足で歩く」という強い気持ちが必要なのです。しかし、退院してこられたT様は、以前のT様とはちがいで、「もう80歳だからできない」「すこし歩くだけで疲れる」「体力も低下するだけだから・・・」と、退院後の自分の姿を感じ、消極的になっていました。T様が取り組まれているトレーニングや、ご自宅に送る際の上り階段が目標達成に繋がるとお伝えし、時には奥様より励ましの言葉を本人様へかけたことにより、気持ちに変化が現れました。入院前は自宅前の階段昇降を拒否していましたが、今では、ご自身の意志で、ご自身の力で、一歩ずつ、ゆっくりと、確実に上がっていかれています。

「トイレだけは自分で歩いていくことを続けたい!」というT様らしさを持ち続けていただく為に、今後も自律支援を実施していきます。

看護師の取り組み:

最期の時までご自分で歩いていただく為に



足のむくみ(浮腫)のある利用者様への支援としてフットケアを実施しております。

足のむくみ(浮腫)があることにより、足が上がりづらい、歩きにくい為、転倒する原因の1つです。

私たち看護師は、利用者様の自律に向け、ご自分の足で最期の時まで歩いていただく為に、フットケアを行い、むくみ(浮腫)の軽減に努めています。その結果、むくみ(浮腫)が軽減し、『たいぶん、歩きやすくなった』というお言葉を頂くことができました。

今後も利用者様の『**いつまでも自分の足で歩きたい**』という想いを持ち続けていただくために、全力で支援していきます。

看護師：小出 杏彌

